

## 子どもが初めて会う「先生」

千葉敬愛短期大学ゼネラルサポーター 佐久間 敦 子



私は、今年（平成28年）3月まで、千葉県の公立高校に勤務していました。いわゆる教育困難校と呼ばれる学校や職業高校での教員生活の後、教頭として介護福祉士の養成高校、進学校、校長として教育困難校の立て直し、高校の統合、進学校を経験し、多くの生徒たちとその家族の在り方を知ることができました。

これまで出会った生徒たちの中には、家庭的に恵まれない状況で育ってきた子ども、逆に過保護の親や過干渉の親に辟易している子どももいました。「子育て」や「家族」の形もいろいろでした。

横道にそれたり、本当の自分を素直に出せずにいる生徒も、また愛情に飢えているため、安易に優しさを求めて騙されてしまう生徒もいました。虐待やネグレクト、祖父母や親戚の家を転々としていた生徒も、児童養護施設から通学する生徒もいました。

乳幼児の大切な時期に十分な愛情や世話を受けていない子の成長には様々な発達の課題や心のゆがみが出てくることがあります。高校生になると、課題が複雑になり、成育歴とその後の体験がまじりあって、問題の解決を難しくしてしまいます。

時には救いようなのないような状況に陥ってしまう事例も少なくありませんでしたが、それでも、そんな困難な中であっても、子どもたちには「学びたい」思いや「自分を変えたい」という思いがありました。

多くの教師や周囲の人のささやかな思いに支えられ、子どもたちは懸命に生きています。

私は、授業でもクラスでも、時々絵本の読み聞かせや紙芝居をして見せました。「将来、結婚して子どもができたりした時に思い出してね」と言いながら、少しでも幼児期の経験の補充になればと思いました。温かい内容の話に、涙を流す子もいました。悪ガキの典型のような生徒が案外しっかり聞いてくれたりもしました。

今、高校では、家庭科や保健体育、福祉の授業、総合的な学習の時間で、「望まない妊娠」「虐待」の問題や、「子育て」「家庭経営」「社会福祉」「児童福祉」「高齢者福祉」などについても幅広く学び、「人が人であるために重要なこと」を社会人になる前に学び身につけていけるように、様々な工夫や取り組みを始めています。

オギャーと生まれた子どもの手に、「幸せ」が握られているのだという話を聞いたことがあります。どの子の手にも、幸せがしっかりと握られているようにと願わずにはられません。

非常に悲惨な環境に育った生徒の言葉を、私は忘れられません。父親の違う幼い弟を、自分のアルバイトのお金で食べさせて、保育園に届けてから通学してきた生徒です。新聞配達、スーパーで揚げものを担当し、夕方保育園に迎えに行く生活をずっと続けてきた子です。非行に走る生徒もいる中で、勉強も頑張るまじめな生徒でした。両親が離婚したのは3・4歳のころだといいます。乱暴な言動でよく叱られていたといいます。その子が、変わったのは幼稚園の担任の一言だったといいます。

「担任の先生が、『〇〇ちゃんは、いい子だよ。先生は〇〇ちゃんが大好きだからね。〇〇ちゃんのいいところをいっぱい知ってるからね』と抱きしめてくれたんだ。」

私は、現在、保育士や幼稚園教諭、小学校教諭の養成を行う短大に勤めています。志のある、温かく厳しく、ひたむきな先生になってほしいと期待しています。親や家庭は選べません。それでも子どもたちに、「幸せ」をつかみ取らせてあげたいと考えています。可能性を広げてあげられるように、どうぞ、最初に出会う先生方に、子どもたちに寄り添って、多くの知恵と愛を惜しみなく与えてほしいと切に願っています。

## 小さな手に大きな未来を～幼児教育振興法案の制定に向けて～

### 幼児教育振興法案の早期制定を願い、決起集会を開催



全日本私立幼稚園  
P T A連合会  
河村建夫・衆議院議員



自由民主党  
幼児教育議員連盟会長  
中曽根弘文・参議院議員



全日本私立幼稚園  
P T A連合会副会長  
遠藤利明・衆議院議員



全日本私立幼稚園  
P T A連合会副会長  
山本順三・参議院議員



前文部科学大臣  
馳浩・衆議院議員



自由民主党参議院  
議員会長  
橋本聖子・参議院議員



幼児教育小委員会  
事務局長  
井原巧・参議院議員

平成 28 年 9 月 21 日、東京・私学会館において、「幼児教育振興法案の早期制定を求める緊急集会」が行われました。本会は、日頃より私立幼稚園発展のためにご尽力いただいている河村建夫衆議院議員（全日私幼 P 連会長）、中曽根弘文参議院議員（自由民主党幼児教育議員連盟会長）、遠藤利明衆議院議員（全日私幼 P 連副会長）、山本順三参議院議員（全日私幼 P 連副会長）、馳浩衆議院議員（前文部科学大臣）、橋本聖子参議院議員（自由民主党参議院議員会長）、井原巧参議院議員（幼児教育小委員会事務局長）をご来賓に迎え、全日私幼連の団体長・理事 57 名の出席を得て開催されました。

最初に、主催者を代表して、河村建夫全日私幼 P 連会長より決意表明の挨拶があり、続いて香川敬全日私幼連会長より、ご出席いただいた国会議員の方々への感謝と共に、「小さな手に大きな未来を」の実現のために、幼児教育振興法案の早期制定が、

何としても必要との挨拶がありました。

また、中曽根弘文自由民主党幼児教育議員連盟会長からは、幼児教育の重要性を踏まえ、私学助成を確固たるものにするためにも、法案の早期成立に全力で取り組むとの熱い言葉をいただきました。続く 5 人の国会議員の先生方からも、幼児教育の重要性が説かれ、幼児教育振興法案の制定に向けて一層の努力をする旨、力強く訴えられました。

その中で、われわれ幼稚園側としては、保護者や教員に、この振興法案の理念を、しっかりと浸透させることも必要であるとの指摘もありました。

最後に、淵上孝文部科学省私学部私学助成課長、伊藤学司文部科学省初等中等教育局幼児教育課長のお言葉をいただき、北條泰雅全日私幼連副会長によるまとめの挨拶で締めくくられました。



## 平成 29 年度 概算要求の説明および 私学助成園における処遇改善が審議される

9月21日、「幼児教育振興法案の早期制定を求める緊急集会」に引き続き、「緊急団体長会・理事会合同会議」が開催されました。

小澤俊通副会長より開会の言葉があり、続く、香川敬会長からは、「子どもの成長にかかわる仕事の崇高さを鑑み、私学助成幼稚園の処遇改善補助について、幼児教育振興法案が決まる前に、各都道府県に提案することが重要。今、訴えることで倍の力となる」との熱い思いが述べられました。

その後、議長に鈴木伸司理事、内野光裕理事が選出され、議事録署名人に石井幸男理事（埼玉）、渡真利彦文理事（沖縄）が選任され議事に入りました。

続いて行政報告として文科省より、平成 29 年度の概算要求について説明がありました。最初に、淵上孝私学助成課長より経常費助成費補助金の概算要求ポイント、その内幼稚園分の概要について詳しく説明が行われました。中でも、教職員の処遇改善については、まず都道府県団体から都道府県（行政）に働きかけることが必要で、その要求があった上で都道府県が特別処遇改善費のスキームを作れば、それに国が補助することができると話されました。

次に、伊藤学司初等中等教育局幼児教育課長より、幼児教育の振興に向けた、要求額配分とその内容についての説明がありました。その後、質疑応答が行われ、行政報告は終了しました。

続いて審議案件に入り、北條泰雅副会長より「私学助成園における処遇改善（人材確保）に向けての緊急要望について」の趣旨説明が行われました。幼稚園教職員の人材確保が難しいと同時に、教員養成校の志望者も減少しており、処遇改善は喫緊の課題であると、説明がありました。

岩田知也専務理事からは要望案の説明があり、すでにいくつかの県で処遇改善に関する補助が始まっていることが紹介されました。

その後、質疑応答に続いて採決が行われ、全会一致で要望案が可決されました。

最後に、園尾憲一副会長の閉会のあいさつで終了しました。

（調査広報副委員長・野上秀子）

### 1日1話、365日分の「読みきかせお話集」

E40451

きょうのおはなしなあに 春  
good night stories spring

E40452

きょうのおはなしなあに 夏  
good night stories summer

E40453

きょうのおはなしなあに 秋  
good night stories autumn

E40454

きょうのおはなしなあに 冬  
good night stories winter

#### きょうのおはなしなあに

1冊につき3か月分を収録。情操を育むお話はもちろん季節や行事などの内容も盛り込んだ1日1話、365日分の「読みきかせお話集」の決定版です。漢字にはふりがながついて、子ども自身でも読むことができます。

### ひかりのくに株式会社

本社／〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表  
支社／〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表

各巻 定価：本体 **2,400円** (税別)  
 大きさ／26.2cm×21.5cm  
 秋・冬は、全国学校図書館協議会選定

## 子ども・子育て支援新制度、会務運営報告など

9月6日、東京・私学会館において、全日私幼連常任理事会が開催され、31名が出席しました。

北條泰雅副会長による開会の言葉、香川敬会長による挨拶の後、議長に村山十五副会長、議事録署名人に坂本洋常任理事と石井亮一常任理事が選任され、議事に入りました。

### ■行政報告：平成29年度概算要求事項について

伊藤学司文部科学省初等中等教育局幼児教育課長、淵上孝文部科学省私学助成課長から、平成29年度の私学助成の概算要求について説明がありました。

### ■報告案件1：幼児教育振興法の件

坪井久也政策委員長より幼児教育振興法の概要や基本的施策について報告がありました。

### ■報告案件2：子ども・子育て支援新制度の件

坪井久也政策委員長より職員の処遇改善の状況に関わる調査について報告がありました。

### ■報告案件3：平成28年熊本地震の件

園尾憲一副会長、土居孝信常任理事（九州地区）、尾上正史経営研究委員長より義捐金の御礼と使途に

ついて報告がありました。

### ■報告案件4：会務運営報告の件

各委員会委員長より委員会の活動について報告、内容についての質疑応答が行われました。

### ■審議案件1：幼児教育振興法案の早期制定を求める緊急集会について

香川会長より9月21日に開催予定の「幼児教育振興法案の早期制定を求める緊急集会」について説明があり、満場一致で承認されました。

### ■審議案件2：私学助成園における処遇改善（人材確保）に向けての緊急要望について

岩田知也専務理事より私学助成園の処遇改善に係る制度の拡充における要望書案について説明があり、理事会への審議の上程が承認されました。

最後に澤田豊副会長の閉会のあいさつで本常任理事会は閉会しました。

（総務委員長・田中辰実）

## 地域で生き残る園になるためのサポートブック



ISBN978-4-577-81398-0 771

## 園のリーダーのために 保育ナビ

管理職向け月刊誌

定価：本体価格926円＋税

B5判 72ページ

### 2016年度 11月号の主な内容

- 保育ナビスペシャル対談** 今月は、労働環境的に保育界と類似点が多いといわれる美容界で、業界の常識に縛られない業務改善・意識改革を実現した（株）ユニックスの森俊雅社長にお話をうかがいます。
- 特集 気づきを促す 中堅職員の学びのかたち**～多様な語りの場が保育を磨く～  
若手の頃とは違った仕事の質を求められる中堅世代。自身のステップアップのために意識して園の外に目を向けるという選択肢もあります。他園の先生との会話や大学院での学び等様々な「語り」の場から見えてくる気づきとは…。
- 震災後の保育から— 保育の本質を見つめる** 建築家であり、子どもの環境づくりを専門とされている仙田満先生に“未来に向けての街づくり”をテーマにお話をうかがいます。

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <http://www.froebel-kan.co.jp>  
ご注文・定期購読のお申し込みは 03-5395-6608 保育営業部まで

キンダーブックの **フーベル館**

★ 9・26

## 平成28年度・102条園研究会議



9月26日、東京・私学会館において、全日私幼連の平成28年度・102条園研究会議が開催され、全国から85人の先生方が出席されました。

はじめに溝渕真澄全日私幼連102条園委員長より開会のことばがあり、講演に入りました。

主な会議内容は次の通りです。

### ●講演

演題：「子ども・子育て支援新制度に係る相続税非課税制度及び加算項目について」

講師：竹林経治氏・内閣府子ども・子育て本部参事官（子ども・子育て支援担当）

### ●質疑応答

事前に集めた、『子ども・子育て支援新制度』について、一般的な質問と102条に特化した質問について村上耕司氏、原田智内閣府子ども・子育て本部参事官補佐にお答えいただきました。

最後に和田誠全日私幼連102条園専門委員より閉会のあいさつがあり、会議は終了しました。

★ 9・30

## 平成28年度認定こども園「教育・保育 質の向上」全国研修会開催

9月30日、東京・私学会館において、「平成28年度認定こども園『教育・保育 質の向上』全国研修会～『幼稚園ならではの』認定こども園を目指して～」が開かれ、全国から約300人の先生方が参加しました。会議の概要は下記になります。

研修①：「幼稚園・認定こども園を取り巻く現状について」

文部科学省初等中等教育局幼児教育課企画官  
成松英範氏

研修②：「幼児教育の・保育の現状を考える」

東京大学大学院教育学研究科教授 秋田喜代美氏

研修③：「たちばな幼稚園の保育一乳児を中心に」

大阪府 認定こども園たちばな幼稚園 邨橋雅広氏

研修④：パネルディスカッション「認定こども園における公定価格の課題整理について」



〈パネリスト〉

指吸会計センター株式会社仙台支店長 田尻文彦氏

認定こども園委員会副委員長 森迫建博氏

認定こども園委員会委員 安本照正氏

〈コーディネーター〉

認定こども園委員会委員長 橋本幸雄氏

## 平成28年度 地区教研大会概要

北海道地区 教育研究大会

北海道・札幌市／8月1日・2日

### 大会テーマ 「人生のスタートにこそ良質な教育を」

～保育臨床の視点を大切に、保育の質を問い続けよう～

本年度で第59回目となる、北海道私立幼稚園教育研究大会を8月1日（月）から2日（火）の2日間にわたり、札幌ガーデンパレスと会議研修施設ACUの2会場にて開催いたしました。

北海道においてこの教育研究大会は、毎年、道内5ブロックで行われるブロック教研大会の皮切りとなる全体会となり、本年度から2年間にわたる（公財）全日私幼研究機構の教育研究課題である、「人生のスタートにこそ良質な教育を」～保育臨床の視点を大切に、保育の質を問い続けよう～の大会テーマのもと、510名の参加者により開催いたしました。

第1日目は開会式の後、記念講演の講師として聖心女子大学文学部教授の河邊貴子先生をお招きし、「遊びの質ってなんだろう？」との演題で、遊びが子どもの成長にいかに重要であるか、そしてその援助や環境構成等について大変学び多いご講演をいただきました。2日目は5つの分科会を設定しました。昨年度から施行された子ども・子育て支援新制度に伴い、今まで以上に乳児期から幼児期にかけての育ちを意識した内容を盛り込んだ内容としました。

第1分科会は年々参加希望者が増え続けている「特別支援教育」をテーマに午前は現場における悩みや困っていることを共有しながら、それに対して講師から回答をいただき、そして、午後からは中学校における様々な問題行動の事例から将来を見据えた育ちについて考え、幼児期に何が必要かを学びました。

第2分科会は「0～5歳児の発達」をテーマに、子どもが大人に教えてもらったことや自分で発見した経験が、人として成長する際の生活や環境にどのように表れてくるのかなど、発達段階を踏まえた具

体的な事例とともに学びました。

第3分科会では記念講演の講師である河邊先生から記念講演の内容をベースにして、映像を中心とした具体的な事例を参考にしながら、「遊びを深める」をテーマにグループワークや保育記録（ラーニングストーリー）を作成するプロセスを通して、子どもの遊びと育ちについて学びました。

第4分科会は「子どもの興味や感性を深め高める保育実践」をテーマとして、実技を中心とした分科会としました。午前は講師の幼稚園で実践しているプロジェクト活動から学びながら、参加者も実際に教材を作成し、科学的活動を体験しました。午後からは子どもの感性を揺さぶるムーブメント教育法の実践を、身体を動かしながら学びました。

第5分科会は「保護者を支える」をテーマに、多様な保護者の対応に迫られている保育者にとって少しでも負担感が少なく適切な支援が行えるよう、科学的な視点、そして実際の保育現場における事例から対応の省察を学びました。

併せて、本年度も2日間を通して幼児教育実践学会でも行われているポスター発表を行い、3園が発表し、各園で実践されている教育について多くの参加者と活発なやりとりがされていました。

昨年度より新制度が施行され、幼児教育・保育を取り巻く環境が大きく変化する中、より一層幼児教育・保育への期待が高まっていますが、今後も幼児教育をしっかりと中心に据えながら、研修会を企画・開催していきたいと思っております。

（（公社）北海道私立幼稚園協会教育研究副委員長、札幌市・札幌ゆたか幼稚園／丸谷雄輔）

## 大会テーマ 「人生のスタートにこそ良質な教育を」

～保育臨床の視点を大切に、保育の質を問い続けよう～

毎年利用しているアルカディア市ヶ谷（私学会館）がリニューアル工事とのことで、1000名を超える大会の会場探しは1年以上前からスタートしていました。おかげさまで国立オリンピック記念青少年総合センターがお借りできるという目途が立ち安堵しましたが、この予約の関係で例年より一週間早い時期の土・日での実施となり、1学期終業式以前に研究大会に参加した幼稚園もあったようです。このように例年とは違う日程で、様々に勝手が違う中、さらに蒸し暑い日々でしたが、その中、連日1000人を超える参加をいただくことができました。それだけ参加者の研修に対する意欲が感じられる両日となったのではないかと思います。7月16日（土）は砂防会館で全体会を、翌17日（日）に青少年総合センターで10の分科会とポスター掲示による研究発表、さらに並行して実施した教員免許状更新講習には142名が受講されました。

それぞれの講座での講師の先生方、企画運営をしてくださった教育研究委員会の先生方、事務局の皆様、そして、決して受け身ではなく学びの主体者として参加くださった先生方に、この紙面をおかりして深く感謝申し上げます。

平成28年度の1学期は、中央教育審議会の教育課程部会（幼児教育部会）において「幼稚園教育要領」改訂の会議が続きました。10年に一度の改訂ですから、教育現場においてもその動向に関心が向けられています。そこで、基調講演には、改訂の委員でいらっしゃる奈須正裕先生（上智大学教授）をお招きして「学力の高度化と、これからの幼児教育」というテーマでお話いただきました。続いての講座では、河邊貴子先生（聖心女子大学教授）に進行役となっただき、中丸元良先生（かえで幼稚園園長・広島県）との対談形式で、かえで幼稚園の保育実践

映像「映像で見る主体的な遊びで育つ子ども～あそんでぼくらは人間になる」を視聴しながら対談をしていただきました。全体会の締めくくりは、音楽家の秦万里子先生による「野を越え山越えホイサッサ 笑って泣けるコンサート」。まさに笑いあり涙あり、元気いっぱい歌とトークで、会場が一体となって楽しみました。

2日目は以下の10のテーマで分科会を設定しました。それぞれの分科会は100名を超える参加をいただきました。①「園長研修」平山許江先生（立正大学大学院非常勤講師）②「親子の育ち（2歳児）」阿部和子先生（大妻女子大学教授）③「園内研修」加藤篤彦先生（武蔵野東第一・第二幼稚園園長）④「保育環境」小林紀子先生（青山学院大学教授）⑤「幼小連携」宮里暁美先生（文京区立お茶の水女子大学こども園園長）⑥「インクルーシブ教育」三井菜摘先生（筑波大学心理発達教育相談室）⑦「幼児理解」門田理世先生（西南学院大学大学院教授）⑧「預かり保育における異年齢の関わり」浅見均先生（青山学院大学短期大学教授）⑨「描くということ」岡田京子先生（文部科学省教育課程課教科調査官）⑩「ドラマで遊ぶ」花輪充先生（東京家政大学教授）この他、ポスター展示発表として7グループが発表。また、この日も教員免許状更新講習を実施しました。（（公社）東京都私立幼稚園教育研修会理事長、東京都私立幼稚園連合会副会長、武蔵野市・武蔵野東第一・第二幼稚園／加藤篤彦）

## 大会テーマ 「育てよう 未来に生きる力を！」

「育てよう未来に生きる力を！」を大会テーマに掲げ、7月28日（木）・29日（金）に四日市にて東海北陸地区の教育研究大会を開催しました。愛情や温もり、笑顔に溢れた未来を子どもたちとともに創ろう！という三重のメッセージが込められた大会です。東海北陸8県から約1,880名が集い、全体会会場に入り切れない状況でした。

## 【魅力満載 多彩な「全体会」】

ウェルカムステージは、県下屈指のジュニア管弦楽団が、加古隆氏作曲の「熊野古道」を演奏しました。県出身の南川三治郎氏の写真映像とともに流れる幽玄荘厳な音色、厳粛な雰囲気の中で世界遺産熊野古道の世界が現出されました。

開会式では、香川敬会長のご挨拶ならびに来賓の方々よりご祝辞を頂き、永年勤続表彰、地区功労者表彰も行いました。

基調講演は、尾木ママ（尾木直樹氏）節が聞かれました。国際情勢やグローバル化の現状が話され、その中で生きる力を培うためにコミュニケーション力の育成が要であることを痛感させられました。

最後に、鈴木翼さんと大友剛さんの公演で会場は一体感に包まれました。歌だけでなく、明日の保育に生かせるふれあい遊びや絵本の読み聞かせも披露され、席を立って全身で楽しさを体感していました。

## 【分科会】

12の分科会、いずれも周到的な準備と協議を重ね、また助言者の的確なご指導もあり、中身が濃く、実りの多い意義深い研修となりました。今回、公開保育に向けた園内研修の分科会を新たに設けましたが、今後の実施につながればと願っています。

## 【PTA大会】

山野さと子さんと山田リイコさんによる親子コンサートを実施し、会場いっぱいの約1,580名の親子が笑顔いっぱい、夏休みのひとときを楽しみました。企画運営も全てPTAの保護者さんが担いました。

## 【四日市、三重の魅力企画】

伊勢志摩サミットの年、そして16年ぶりの四日市での開催ということで、その魅力を感じていただけるようさまざまな特別企画を催しました。準備不足で不十分な点もありましたが、四日市（三重）の魅力の一端を感じていただけたことと思います。

## 〔みえのご当地グルメ〕

全体会開始前の昼食にと三重のグルメ店舗の屋台を用意しました。

## 〔みえのグルメ三昧〕

全体会後の夕食に三重のグルメを味わっていただきました。四日市諏訪太鼓の勇壮な演奏もお聴きいただきました。

## 〔ナイトミュージアム、プラネタリウム〕

全体会後、四日市博物館・環境未来館のナイト営業を特別に実施し、無料で開放しました。

世界1星の数が多いプラネタリウムも無料でご観覧いただきました。

（（一社）三重県私立幼稚園・認定こども園協会理事、四日市市・暁幼稚園／松永高弘）

## 大会テーマ 「人生のスタートにこそ良質な教育を」

～保育臨床の視点を大切に、保育の質を問い続けよう～

「♪～四季をいろどる花々は、咲いて匂うよ、おさなごに～♪」幼稚園讃歌の斉唱で始まった近畿地区教員研修大会は、大勢のご参加を頂き、暑い夏がさらに熱気をおびた「熱い夏」となった2日間でした。

開会式につづいて記念講演『世界初クロマグロの完全養殖』を、近畿大学名誉教授の熊井英水先生から拝聴しました。熊井先生は、近大マグロとして有名な養殖マグロ開発の苦労話を、映像を使ってわかりやすく講演下さり、「養殖マグロの研究にとって大事な三訓は、①継続②正確な観察眼③愛情です。この三訓は、幼児教育の専門家である皆さまにも通じるものがあるでしょう」と結ばれました。

休憩ののち、基調講演『保育者の子どもへの「やりとり」から見えるもの』を、大妻女子大学教授の岡健先生から拝聴しました。映像や資料をふんだんに使った講演で、岡先生が体験した具体的なお話に引き込まれ、過ぎゆく時間が短く感じられる90分でした。

夜の懇親会は、アトラクションとして乾杯の前にオーボエの演奏会があり、出席者は艶やかな音色に目を閉じて静かに聞き入りました。乾杯ののちの食事中、記念講演でお聞きした近大マグロの解体ショーがあり、スマホを手に多くの「にわかカメラマン」が撮影に殺到していました。その後テーブルにはマグロのお刺身が大量に届けられ、みな舌鼓を打ちました。

第2日目は、分科会と公開保育が行われました。近畿の5府県が各々に研究した内容を発表され、質疑応答も活発に行われた参加型研究会で有意義な分科会でした。分科会のテーマは次の通りです。

第1分科会：京都府「子どもが自ら進んで取り組み、成功体験を自信につなげる運動遊びとは」



第2分科会：奈良県「保育者の発達の捉え方」

第3分科会：兵庫県「認定こども園の現状と課題から今後の振興策を探る」

第4分科会：滋賀県「仲間のなかで自分の思いを伝え合える子どもに」

第5分科会：大阪府「保育ー幼児教育の本当に大切なこと」

そして和歌山市の3園（さくら幼稚園・名草幼稚園・野崎幼稚園）が、公開保育を行いました。コーディネーターの先生との事前研修など各園の多大な努力のおかげで有意義な公開保育研修となりました。

「♪～皆の手に持つ花々の、開くあしたをよろこび祈る、ああ栄えあるは我らのつとめ～♪」幼児教育に携わる者としての責任をあらためて痛感した教員研修大会でした。

（（一社）和歌山県私立幼稚園協会教育研究委員長、  
有田市・ぶっとく幼稚園／菅田良仁）

## 大会テーマ 「人生のスタートにこそ良質な教育を」

～保育臨床の視点を大切に、保育の質を問い続けよう～

8月4日・5日、四国四県から567名が参加し、第31回全日本私立幼稚園連合会四国地区教育研究大会が高知県高知市にて開催されました。ご参加の先生方には、たくさんのご協力をいただき、大会を盛り上げていただきましたことに心よりお礼申し上げます。

今回は、県庁前に大会看板を掲げました。高知大会では初めての取組です。それにより、ご参加の方々に歓迎の意を表しただけでなく、私立幼稚園自体を社会へアピールできたのではないかと考えています。

記念講演は、白梅学院大学学長汐見稔幸先生から、「生きる力につながる保育の質」と題した講話をいただきました。21世紀に求められる教育の中には、非認知的能力、IQと社会情動的スキル、目標達成力、自己充実感、アクティブラーニングとパッシブラーニング、という保育に直接かかわる話をいただきました。その後、6つの分科会に会場を移動し、各分科会テーマに沿った案発表を、2園ずつ行いました。発表後、フロアーからの質問を受け、一日目は終了しました。

大会2日目は、各分科会でグループ討議です。今度は、参加の先生方が、提案発表を軸に、様々な意見を交わし合う時間となりました。同じ問題を共有したり、他園の取組からヒントをもらったりしながら、ある程度話を取りまとめ、グループごとに発表する時間を持ちました。その後、助言の先生より、ご指導をいただき、6つの分科会は終了となりました。

園長設置者部会では、学校法人あけぼの学園あけぼの幼稚園園長の安家周一先生より「幼稚園由来の園による新しい幼稚園の姿と課題」と題した、講話をいただきました。はじめにBSで放送された番組

「ママたちへ」のDVDを視聴し、その後、安家先生から、教育・保育課程と保育計画、学級担任と担当シフト制、新制度の特徴、全ての子どもの最善の利益や子どもを中心とした社会構造、などの話を伺いました。その後、フロアーとの意見交換を持ちました。その中で、私立、公立、株式会社などいろいろな園がある訳ですが『自分の園だけがよくなるのではなく、全体が一緒によくなっていく必要がある』ことを共通理解しました。

一方、免許更新講習では、高知学園短期大学幼児保育学科長山下文一先生より、「今後における幼児教育と幼稚園教員の専門性」と題した講話をいただきました。ゲームでアイスブレイクしたあと、現在山下先生が文科省でかかわっておられる平成30年改訂予定の新教育要領を中心にしながら、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の項目や育成すべき資質能力3つの柱などを講話いただきました。今後は、幼小中高の各学校段階が同じ柱をもって教育を進めることになり、その中でも『自ら物事にかかわり、自ら学んでいく楽しさを身に付ける』幼児期の教育がとても大切になってくることを、受講者は、共有することができました。改訂教育要領についての最新の情報や今後の幼児教育の方向を学ぶことができました。

(高知県私立幼稚園連合会副会長、教育研究部部長、高知市・あたご幼稚園／野村貞夫)

## 大会テーマ 「人生のスタートにこそ良質な教育を」

～保育臨床の視点を大切に、保育の質を問い続けよう～

8月4日、5日。例年にない猛暑の中、第32回教師研修大会佐賀大会が佐賀県佐賀市で開催されました。遡ること4月14日、九州では初めての観測事例となる震度7の大きな地震が熊本県を中心とした地域を襲い、甚大なる被害をもたらしました。以降、九州各県においても度重なる余震に緊張を強いられる日々を過ごすこととなりました。九州全体が不安に覆われた中で「大会を開催しても熊本や大分の先生方は参加できるだろうか。例年通りの人数は集まるだろうか」と実行委員一同、大変心配しておりました。ところがふたを開けてみれば「九州はひとつ!」の合言葉通り、全参加者数が1,070名、被災地熊本・大分両県合わせて220名もの参加をいただいたのです。震災にも勝る各県先生方の幼児教育・保育への情熱のおかげで我々実行委員の心配は杞憂に終わると同時に、みんなが元気になれる大会でありたいと心から願ったことでした。

大会1日目は佐賀市文化会館において開会式・基調講演・記念講演・引継ぎ式が行われました。開会式では、全日本私立幼稚園連合会の園尾副会長に、毎年恒例となっている開催県の地名を織り込みつつも時宜を得た素晴らしいご挨拶をいただきました。会場全体が明るく和やかな雰囲気となりました。

基調講演は、山梨大学教授の加藤繁美先生に「対話と共感の幼児教育」副題「自分の声が聴きとられる権利と正当に評価される権利」というテーマでご講演いただきました。加藤先生の温かく愉快なお人柄を感じながら、「子どもの声を丁寧に聴き取る」「子どもに共感しないまま大人の考えを押し付けない」「子どもは、大人が自分に共感してくれることで心を育てていく」など、保育者として子どもの言葉を丁寧に聴き取ることの大切さを学び直すことができました。お話の合間に映し出される子どもたちの「つ

ぶやき」の数々は会場全体の笑いを誘いましたが、聴き取ってもらえないまま育っていく子どもたちがいる現実、保育者として憤りと悲しみを感じると同時に厳しく自戒の念を新たにしたことでした。

記念講演は、佐賀市出身の弁護士本村健太郎先生に「本村弁護士の行列のできない法律相談所～現場で生きる、知っておくべき法律～」というテーマでご講演いただきました。テレビで拝見している親しみやすさそのままに、佐賀の方言を使いながら保護者のクレームへの対応や、危機管理についてお話しいただきました。最後には「仕事以外でも楽しみを見つけて前向きになりましょう」と参加者にエールを送っていただきました。

大会2日目は3会場に分かれて13分科会と免許状更新講習を実施しました。1～12分科会は各園が課題に沿って研究した内容を発表し、参加者と共に学び合いました。設置者園長の分科会では、ジャーナリストの猪熊弘子先生をお迎えして「子どもの〈いのち〉を守る幼稚園・こども園のあり方について考える～愛情深く、豊かな保育実践のために～」のテーマでご講演いただきました。著書「死を招いた保育」の中に記されている事例を交えながら、保育で一番大切なことは、子どもの「いのち」を守ること。一人ひとりに愛情深く接すること。そして自園の「常識」を常に見直すこと。大切な子どもたちを守ることは先生たち自身を守ることに繋がるということを教えていただきました。人生のスタートにこそ大切にすべき学びを深める二日間となりました。ご協力いただきました関係各位に心より感謝いたします。来年度の開催県は福岡県を予定しています。

(佐賀県私立幼稚園・認定こども園連合会教育研究  
委員長、小城市・牛津ルーテルこども園／和田由美)

2016年4月に熊本で発生した地震で多くの方が被災されました。今月号では調査広報委員が現地を訪れ、地震発生から半年がたつ熊本県の被災した幼稚園の先生方、また保護者の方より当時の様子や、現在の保育現場における復興について取材を行いました。その内容を掲載いたします。

## 震災からの学び —明日へ—

熊本の幼稚園においては入園式直後「さあ今年度がいよいよ始まる」という本当に大変な時期、そしてだれも予測もしていなかった大地震。

「夜9時26分という子どものいない時間がまだしもの救いです」と、私立幼稚園のお二人の園長先生。震災から今日まで全力で復興に向かっていらっしゃるお話を二人の先生方からお伺いしました。以下は第二さくら体育幼稚園（熊本市戸島西7丁目）の井島竹男園長先生と認定こども園滝尾幼稚園（熊本市上益城郡御船町滝尾）の古閑榮実園長先生のお二人のお言葉です。

「子どもたちはみんな無事でした。本当に無事でした。揺れが大きく特に二階部分がひどかったです。地面も亀裂があり再建ができるかどうか・・・でも子どもが全員無事とわかり胸をなで下ろしました」「しかし、当時は各家庭に連絡もつかず、何からどうしていけばいいのか本当に啞然としました。そして、16日の未明にもう一度大きく揺れるとは・・・本当にしばらくの間は片づけをする気にもなりませんでした。また来るのではと思うと・・・なくなった書類もあります。小学校へ避難した職員もいますが、連休が明けてから、避難所から出勤できる先生が出勤して、子どもやご家族の安否確認を急ぎました。まだ当時7割の子どもと連絡が取れず本当に心配でした」そして、「一番困ったのはやはり水です。毎日300ℓのタンクを2つ用意し、一日に何度も水汲みで往復しました。やっと、5月27日には水が出るようになり一安心でした。しばらくの間は保育室の中も外靴で生活し、避難訓練を毎日して子どもたちの安全を最優先に保育に取り組

みました」と伺いました。先生方が懸命に頑張っている中で、少しずつ子どもたちも今までの園生活を取り戻し、窮屈で不便な面もある中でも楽しめるようになってきたそうです。まだ日中揺れがあるそうですが、慣れたのか子どもたちもびくびくしなくなったとおっしゃっていました。震災当初は年中や年長組の子どもも抱っこしてほしいと不安でいっぱいだったそうです。

古閑先生の幼稚園は5月9日・10日・11日にやっと保護者会を開くことができ現状を説明されました。「震度4以上の場合はすぐに子どもを迎えにきてください」と伝え、園舎を見て納得された方だけ登園していただくようお願いしたそうです。5月末までは30名以上の子どもが休園。6月からはほとんどの子どもが登園するようになりました。

しかし、最終的には様々な事情から10名以上の方は転園されたそうです。その中には、震災を受けてすぐに近くの保育園が町の施設を使い仮園舎で保育を始めたため、そちらに転園された方もいたそうです。「保護者の方は傷跡の残っている園舎が心配なんでしょう。転園される方をお引き留めできないのは本当に申し訳ないことです」と心を痛めておられました。

また、井島先生の園も25名以上の方が、近所の保育園や他の幼稚園に転園され、また県外へ移転された方も数名おられたそうです。

お二人の園長先生は「保育園はすぐに市町村が対応されたのに対して、我々のところには県も市も支援の手が遅いのはどういうことだろうか。今回に限らず、幼稚園・保育園・公立・私立の格差という

か、捉え方に差があるのは合点がいかない」とおっしゃっていました。

「今回のように大きな災害の際には、子どもたちに同じように支援するのが当然ではないかと考えます。同じ地域にも関わらず保育園だけが早く施設が整うのは本当に悲しいことです。今、われわれが園舎の建て替えをするととなると補助金も限られているため、かなりの予算が必要になります。よりよい保育を継続していくために、一番大事な子どもたちのことを、私たちは今後しっかりと訴えていかなければなりません。地震はいつ・どこで起こるかわかりません。日ごろ、水害については心配していましたが、地震が起こるとは思ってもみませんでした。しかし、今回の地震でいつでもどこにでも地震は起こるのだと、つくづく思い知らされました。もう他人事ではないのです。そして、県・市、国は復興にむけて、幼稚園であろうと、保育園であろうと、公立、私立関係なくどこに通っている子どもにも等しく、子どもたちの利益を最優先に考えていただきたい」と、お二人の園長先生が口をそろえてきっぱりとおっしゃいました。

「今年は遠足や園外に出る機会はかなり少ないですが、子どもたちに楽しい思い出をいっぱい作ってあげたいと全職員で頑張っています。昼間に地震が起きたらどうしようと不安になることもあります。しかし、今回の地震を教訓に避難訓練の内容を今、見直しをしています。もし、保育中に地震がきたら、



▲被災した第二さくら体育幼稚園の内部

先生は、子どもにかぶさり身体を張って守ります。本当に普段通りの生活がどんなに素晴らしいものであるかをひしひしと実感しています。そして今まで通りの園生活が一日も早く取り戻せるように・・・」と心から願っていらっしゃいました。

最後に「九州の幼稚園をはじめ、全国の私立幼稚園の方々からたくさんの励ましや義捐金を送っていただき本当にありがたかったです。そのおかげで前を向いて頑張る勇気をいただきました」としみじみおっしゃっていました。

声を掛け合い、お互いの情報を共有し合い、そして支え合いながら全国の私立幼稚園の先生方一丸となり頑張っていかなければと、お二人の園長先生の貴重なお話しをお伺いし痛感いたしました。

(調査広報委員、岡山市・つしま幼稚園／光岡美恵子)



新しいものを見るたび、触れるたび、

目覚ましく成長する子どもたち。

子どもたちにとって、毎日が成長の舞台です。

育む環境で、子どもたちの明日は変わる。

だから、私たちは大切なことを「環境」から考えます。

好奇心や想像力、勇気や感動。

そして、子ども同士の関わり合い。

子どもたちが大切な時期に、確かな一歩を踏み出せるように、

最適な環境の未来をつくりあげていきます。

こども環境の未来をつくる



ショクエツ

## 「震災を経験して感じた普段の保育の幸せ」

熊本は復興に向けて元気に動き出しています。被災した園の保護者である熊本県私立幼稚園 PTA 連合会会長、認定こども園東海大学附属かもめ幼稚園保護者会会長の大森恵太氏にお話を伺いました。

大森氏：まさか熊本であんなに大きな地震が起こるとは、誰が想像していたでしょうか。台風や水害に対する認識はあったのですが、本当にまさか、の世界でした。子どもたちは幼すぎて、事の重要性が認識できなかったらしく、避難所で無邪気に遊んでいました。でも、大きな音に異常なほど反応する。そのギャップが、何とも痛々しかったです。新学期が始まってすぐの地震だったので、保護者会も立ち上がっておらず、連絡網もできていない。横の連絡ができない状態は、保護者として辛いことでした。

地震からほぼ一か月後の5月10日に園は再開されました。我が子は年長児なので、園生活最後の年。いっぱい思い出を作ってもらいたかったのですが、行事にたくさん制約が入りました。遠足でいつも行っていた熊本動物園は閉園していますし、阿蘇はみなさんご存じのとおり、阿蘇大橋が陥落して行けない状態。熊本のシンボル、熊本城も修復には気の遠くなりそうな時間がかかる。私の園は園児数300人を超えるので、行けるところが限られてくるのですが、よく利用していたパークドームという全天候型の施設も利用できない。この震災がなければ、もっと違った年長児の一年を過ごしていたかと思うと、かわいそうな気がしてなりません。

でもそんな状況の中でも園の先生方がたくさん努力をしていただいて、普段の園生活をだんだんと取

り戻すことができています。日常の当たり前のことが、なんと素晴らしい事か。震災を経験して改めて思うようになりました。

被災してすぐに支援物資を届けていただいたのですが、それは九州の私立幼稚園 PTA のお父さんやお母さんたちが園長先生方と協力していち早く動いてくださったと聞いています。また、全日本私立幼稚園連合会を通じて集まった義捐金は、被害が大きかった園の再建にすべて当てられるとか。本当にありがたく、仲間の励ましがどれだけ私たちが前を向いて進む勇氣になるのか、今回の震災を通じて感じたもう一つの想いです。

熊本は復興に向けて元気に頑張っています。全国にこのことを発信したいのですが、少し気になることがあります。私は役職がら、園長先生方とお話する機会が多いので、なおさら思うのかもしれませんが、復興に関しての行政の対応について、格差があるのです。私立と公立の差、幼稚園と保育園の差等々。

幼児期の子どもに対しては当然、平等であるべきです。保護者の声は行政をも動かす力があると信じています。熊本がもっと元気になるために、私たちが動いていく方向性を見つけた気がしています。（調査広報副委員長、佐賀市・認定こども園にじのはねこども園／高尾恵子）



大森恵太熊本県私立  
幼稚園 PTA 連合会会長・  
認定こども園東海大学  
附属かもめ幼稚園保護者会会長

# 日本私立学校振興・共済事業団の融資

幼稚園の経営者のみなさん、こんなお悩みはありませんか？



New



園舎が古くなったので、安全性を考えて建て替えたい

- 平成28年度 耐震に関する利子助成制度です。ぜひご活用ください！

## 対 象

○旧耐震基準の園舎の建て替え  
耐震化促進のための補助金の  
対象となる改築事業

耐震改築利子助成

〔私立学校施設整備費補助金〕  
〔安心こども基金等〕

○耐震補強工事・非構造部材の  
耐震対策事業

防災（耐震）機能強化のための  
補助金の対象となる改修事業

防災（地震）対策費（耐震改修利子助成）

## 事業団の融資

この融資制度は、支払利息のうち年利  
0.5%を超える分について、文部科学省  
から私立学校施設高度化推進事業費補助  
（利子助成）を受けることができますので  
全借り入れ期間  
実質0.5%の  
固定金利です。

※融資金利が0.5%以下の場合は  
利子助成は行われません



融資上限＝補助対象事業費－補助金

※ 補助金の対象となっている事業に  
対してご利用いただけます。



給食室を増築したいけど資金が・・・



- 通常の融資もご相談ください。

低利・固定金利  
借入期間はなんと！  
最長20年

返済方法は  
利息負担の少ない  
元金均等返済

## 融資金利表

平成28年9月9日現在

| 融 資 費 目                                 | 返 済 期 間           |                   |                             |
|-----------------------------------------|-------------------|-------------------|-----------------------------|
|                                         | 20年以内<br>(うち据置2年) | 10年以内<br>(据置年数含む) | 6年以内<br>(据置年数含む)            |
| 【一般施設費】<br>園舎・遊戯室等の建築事業等<br>並びに園地の買収事業等 | 年%<br>0.5         | 年%<br>0.4         | 年%<br>0.5                   |
| 【教育環境整備費】<br>校教具並びに通園バスの購入等             | —                 | 0.4               | 5年6か月以内<br>(うち据置6か月)<br>0.4 |

※融資金利は毎月の金利情勢により変更することがあります。

※上記費目以外にも災害復旧事業、公害対策事業等が対象となります。

日本私立学校振興・共済事業団

融資部 融資課

〒102-8145 千代田区富士見1-10-12

☎ 03 (3230) 7862～7867

✉ yushi@shigaku.go.jp

台湾・臺北市立大學幼兒教育系幸曼玲副教授／講演概要

## カリキュラム改革の中でのリーダーシップ

今回は私立幼稚園 A 園の園長である小猫先生を例に、カリキュラムリーダーとしての成長過程を 3 つのステージに分けて、ステージ 2 まで話しました。今回は小猫先生の最終ステージと、2 例目の B 園について説明します。

### 【ステージ 3 他人の感情を理解して、人の立場に立って考える】

小猫先生は 1 年間のステージ 1 と 2 を経て、大きく変わりました。小猫先生は、保育者たちの計画がうまくいかないと予測できても、計画を否定するのではなく、まず保育者たちの意見を引き出します。保育者自身に意識させ、自己修正するのを待ちます。

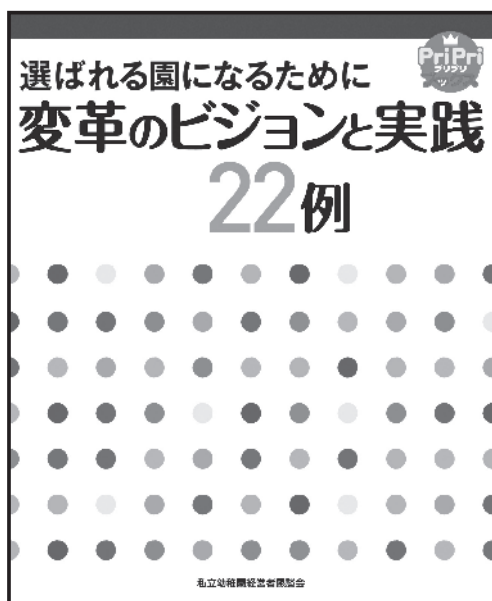
このような経験を積み重ねるうちに、保育者チームのメンバーに自主性があらわれ始めました。チーム力が高まり保育者たちは、他のクラスのやり方を見て、自分のクラスに応用する方法を考え始めたのです。

2013 年の終わり頃になると、小猫先生は園長とカリキュラムリーダーとして、A 園をうまく順調に引っ張っていきえるようになりました。2014 年、2015 年に私（幸曼玲氏）が A 園を訪問した時には、継続的に園をリードしていました。保育者が入れ替わる頻度も減り、幼稚園は継続的な成長ができるようになりました。

カリキュラムリーダーの働きかけは、メンバーをケアし、目標を設定し、メンバーの努力を肯定する。そしてメンバーの自主性を導き、その努力に心から感謝することから始めなければいけません。

### 【カリキュラム改革を行った公立幼稚園 B 園の事例】

A 園の経験を経て私（幸曼玲氏）は、2014 年に 2 事例目である公立幼稚園の B 園の指導に入りました。台湾の公立幼稚園の特徴は右のスライドのとおりです。今回の B 園の幼児教諭は年齢差があり、初任から経験年数 30 年以上の保育者もいます。



こども園への移行？ 0・1・2歳児保育を導入？ 保育の質の向上は？

## 選ばれる園になるために

～変革のビジョンと実践 22 例～

## 保育施設の未来がこの本に！

保育施設の“機能と質”を考える。  
22 園の変革ビジョンとプロセスを一挙公開。

私立幼稚園経営者懇談会・著

248 ページ／税込 4,320 円

世界文化社刊／4061301

株式会社 世界文化社 ワンダー営業本部

TEL : 03-3262-5128 FAX:03-3262-6121

B園には2年間ほど指導に入りました。B園の幼児教諭は効率を重視し、幼児に代わり何でもやってあげる方針でした。特にカリキュラムは、保護者のニーズを優先し見てもらえるように幼児にたくさん学ばせます。2年間の指導を経て、5クラスのうち2クラスは顕著な変化がありましたが、1クラスは少し効果が見られ、残り2クラスはあまり変わらないという結果でした。そして残念なことに、B園は昨年8月には、指導する前のカリキュラムに戻ってしまいました。

公立幼稚園の教諭は私立幼稚園の教諭よりも給与が多く、夏休みや冬休み等の休暇も取得できます。だから国の希望に応える保育をおこなうことが可能ではないかと考えていました。しかしB園の保育者たちは、これまでのカリキュラムで何の問題もなく、保護者からの支持を得ていたにも関わらず、なぜ変える必要があるのかと疑問を感じていたのです。変化後の環境がどうなるか分からない、だから変えたくないという考え方もあったようです。

#### 【カリキュラムを改革における過程と必要な要素】

日本人の與良昌浩氏の企業管理の本を読みました。その中に、「ゆらぎ進化サイクル」の話が紹介されていました。このサイクルは、カリキュラム改革の過程にもかかわる要素です。またサイクルの中で一番注意すべきは、サイクルの過程での全ての決

#### 公立幼稚園/附属幼稚園の現状

- ・公立幼稚園/附属幼稚園—1クラス幼児30名、2名幼児教諭
- ・二人の幼児教諭は行政職を兼任、保育は分担されており、協同的ではない
- ・幼稚園園長を配置する以外に、88%の園長は校長先生、園主任は幼稚園のリーダー
- ・園主任は責任を持つわりに権限がない、幼児教諭は二年交代制
- ・リーダーシップが欠如、同僚間の地位は同じ
- ・幼児教諭は専門的自主性があり、それぞれカリキュラム観を持つ
- ・幼児教諭の間に年齢差があり、養成課程の重点や方針に差異
- ・公立幼稚園/附属幼稚園幼児教諭が安定した状態から変わる必要を感じていない

定は、一時的な決定であるということです。つまり仮の決定です。まず決定して、サイクルを進みながら変えようとする、失敗は成功に近づいていくための過程です。

新旧の教育要領で育つ子どもの様子を見比べながら、どんなカリキュラムをデザインするべきかを考えていきます。こうした手順で、保育者に「あなたが今までやってきたことは間違いでした」と言うのではなく、過去と現在のカリキュラムとは違うという理解を深めたいのです。時代が変われば教育要領も変わり、これまでのカリキュラムのデザインを変えようという動きになるはずです。

こうした進化サイクルの過程において、私はスーパーバイザーとしてカリキュラムリーダーに十分に協力できなかったことに気がつきました。以前は、保育者は失敗してはいけないという思いでしたが、



季節を感じて  
作って楽しむ!

ポット編集部 編  
定価1,944円(税込)  
26×21cm/96ページ  
発行・発売 チャイルド本社

新刊

## アイデアいっぱい! 季節&行事の 製作あそび

こいのぼり製作をはじめ、七夕、いも掘り、作品展、クリスマスなど、幼稚園や保育園で欠かせない、季節と行事の楽しい製作のアイデアがいっぱい！  
製作活動の目安となる年齢表示付きです。

現在は失敗しても良いと考えるようになりました。

### 【カリキュラムリーダーシップのモデルと外部のスーパーバイザーにできること】

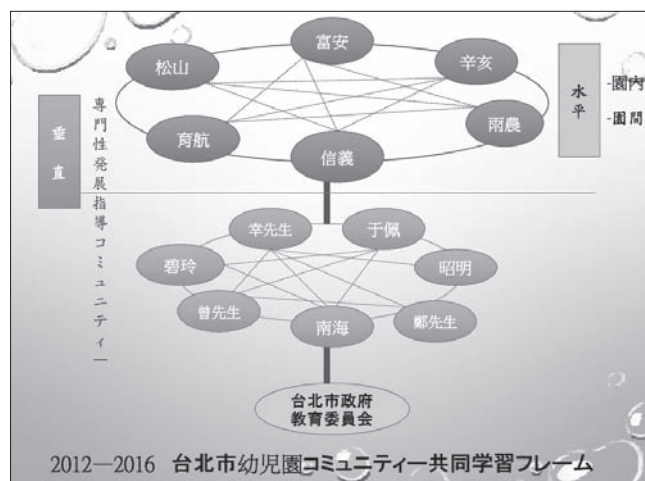
カリキュラムリーダーがすべきことは、チーム文化を再建することです。そしてカリキュラムリーダーをサポートしてそのシステムを作ることが、外部のスーパーバイザーにできることです。

この台北市におけるサポートシステムへの参加は、右のスライドのように垂直軸と水平軸の2方向のつながりがあります。垂直軸は、総計画と区域センター、区域センターとスーパーバイザー、区域センターと受入幼児園、スーパーバイザーと受入幼児園といったつながりを指します。水平軸は、区域センター間のつながり、スーパーバイザー同士のコミュニティ、受入幼児園同間のコミュニティ、受入幼児園園内のコミュニティです。

外部のスーパーバイザーは、「今のままで良い、変わりたくない」という安定の状況を保育者に認識させる手助けや保育における問題意識や目的意識を持たせるサポートもします。

### 【結論】

カリキュラム改革において最も重要なのは人です。幼児園のカリキュラムやカリキュラムリーダーの本はありますが、本を渡せば思うようになるというわけではありません。本をお渡しすることはでき



ますが、本に基づいて人がどのように動くのか、どのようにやるのかという点が重要です。

そしてチームの力を高めるために、雁行形態論という理論があります。雁が単独で飛ぶよりも効率が上がるためV字型に成して飛ぶように、チームでの取り組みも大切です。ただし、チームリーダーが不可欠です。チームリーダーが疲れてしまった時には、後ろに引き続く新しいリーダーも必要です。チーム全体が積極的に参加し、共同的な目標に向かい努力しなければなりません。

まずは十分な人数をそろえること、自発的、自主的に飛ぶこと、そして皆と一緒に飛び、良好に競い合える環境で努力することがコミュニティの成立の示唆となります。

(兵庫県尼崎市・認定こども園七松幼稚園園長／亀山秀郎)

## (株)学研教育みらい

東京都品川区西五反田2-11-8  
幼児教育事業部

お問い合わせは  
フリーダイヤル 0120-833-415

### 園ぴゅう太のメールサービス

**らくらくメール**  
園から保護者へらくらくメール送信！  
組別・個別送信、既読確認もできます。  
サーバー二重化で、いざという時も安心です。

**らくらくバスメール**  
スマートフォンでバスメールを送信！  
大きなボタン表示で画面操作もらくらく。  
タップするだけでメール送信できます。

**ぜ～んぶ学研に  
おまかせ!!**

心機一転！  
リニューアル

オリジナル！  
キャラクター  
ロゴ

Flashで  
動画！

**らくらくホームページ**  
目的やご要望に合わせて作成し、学研が更新  
もお電話・FAXで対応します。  
「お知らせ更新は園で…」というご要望にも  
システム併用でご対応いたします。

## 青森県の研修会ご紹介

青森県私立幼稚園連合会は青森（38 園）、弘前（23 園）、八戸（38 園）の3つの地区会で構成されています。各地区会独自でも様々な活動をしていますが、ここでは今年度上半期に県全体で取り組んだ研修についてご紹介します。

5 月に青森県私立幼稚園教員研修大会が開催されました。主題を「人生のスタートにこそ良質な教育を」とし、F R 教育臨床研究所長の花輪敏男氏のご講演の後は、「運動あそび」の実技講習を行いました。講師は体操のお兄さんの佐藤弘道氏と、創作あそび作家の谷口國博氏でした。参加者は楽しいトークと軽快な音楽に乗せられ思いっきり体を動かしました。

6 月には東北地区私立幼稚園設置者・園長研修会が青森市を会場に開催されました。記念講演は青森県企画制作部世界文化遺産登録推進室参事の岡田康博氏に「世界をめざす J O M O N」と題してご講演いただきました。2つの分科会には、全日私幼会長の香川敬氏と（公財）全日私幼研究機構理事長の田中雅道氏をお迎えし、内容の濃い充実した研修会となりました。

9 月になってからは、新採用教員研修会、園長協議会、乳幼児保育研究会と研修会が続きました。この中で乳幼児保育研究会は今年度初めて実施されましたが、参加者から継続の強い要望があり、更に充実したものにしていきたいと思っております。

「研修は私立幼稚園の鏡である」と言われています。これからも、教職員の専門性を磨き、人間性を高めるために研修を積んでいかなければならないと思っております。

（青森県私立幼稚園連合会副会長、八戸市・八戸学院短期大学附属幼稚園聖アンナ／山西幸子）

## 地道な研究会

鳥取県は東部・中部・西部で、それぞれの園数は 12 園、3 園、12 園、全 27 園のうち幼稚園は 16 園という割合です。西部 12 園が、幼児教育研究会というものを立ち上げて 30 年になります。

年齢ごとの研究部会は研究主任と研究員とで 4 ～ 12 名ほどで構成され、新任の先生も少ないため、月一回の例会では、若い先生が悩みを聞いてもらったり、ベテランの先生がアドバイスをしたりと、コミュニケーションと不安の解消の場になっています。それが、この会が長く続けている秘訣だと思われます。

この幼教研で、平成 23 年に中国地区大会の分科会で研究発表をしました。その時のキーワードは保育の「言語化」でした。言語化することで自分が何をやっているかがはっきりするとともに、その言葉が他者（同僚、保護者や一般の人）とをつなぐものになるということでしたが、5 年経った今でも依然として同じことが課題として残っているようです。

来年度は中国地区教育研修大会で再び研究発表をすることになっています。今回は鳥取県が掲げるめざす子ども像「遊びきる子ども」とその事例様式を足がかりにして、子どもの見方や理解・保育者のあり方・記述や記録の取り方・計画の立て方など、いつも直面していることを俎上に上げたいと考えています。さらに「ねらい」「内容」や「心情、意欲、態度」といった教育要領の基本となっている事柄を、改めてその意味づけ・位置づけを考えて、それを踏まえて現場の保育者が使いやすい様式を提案できないか模索中です。

（鳥取県私立幼稚園・認定こども園協会研究委員、境港市・認定こども園美哉幼稚園／西元和夫）

## 編集後記

夏休みに開催された四国地区教研大会で、「子どもたちのやさしさや思いやりの育ちを考える」という分科会を担当しました。

多くの園で、「やさしさや思いやりのある子を育てる」ということを教育目標に掲げていらっしゃると思います。けれども、その指導が、他の子が遊んでいる遊具を使いたい時には、「かして」と言い、言われたら「いいよ」と答えるという形式的なものであったなら、それはやさしさや思いやりが育ったとは言えないでしょう。

以前に読んだ『『思いやり』という暴力』PHP文庫・中島義道 / 著に、欧米人は意見の相違がある場合は、納得するまで討論してから合意点を見いだすが、日本人は、できるだけ意見の相違が表に出ないように事前に根回し、たとえ相手に間違いがあっても指摘しないなど思いやりのある態度が求められているとありました。

今、国際化された時代に求められることは、外国の人と対等に意見を戦わせることができる態度を育てることではないでしょうか。

(調査広報委員・榎村文夫)

## 平成 28 年度 (第 9 回) 免許状更新講習の認定一覧

### ●必修領域「全ての受講者が受講する領域」に関する免許状更新講習

| 講習の開催地     | 講習の概要                                                                                                                                                                              | 担当講師                           | 時間数 | 講習の期間      | 受講数  | 認定番号              |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------|-----|------------|------|-------------------|
| 福岡県<br>福岡市 | 「国の教育政策や世界の教育の動向」「教員としての子ども観、教育観等についての省察」「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見」「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。なお、本講習は12月3日開催の選択必修講習と連続して行うものです。 | 矢野祥子（九州女子短期大学教授）、北野幸子（神戸大学准教授） | 6時間 | 平成28年12月4日 | 150人 | 平28-80012-100977号 |

### ●選択必修領域「受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講する領域」に関する免許状更新講習

| 講習の開催地     | 講習の概要                                                                                  | 担当講師                                           | 時間数 | 講習の期間      | 受講数  | 認定番号              |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|-----|------------|------|-------------------|
| 福岡県<br>福岡市 | 本講習では、幼稚園を巡る近年の状況の変化と平成30年施行される新教育要領について理解を深めることを目指します。なお、本講習は12月4日開催の必修講習と連続して行うものです。 | 尾花雄路（福岡女子短期大学教授）、田中雅道（（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構理事長） | 6時間 | 平成28年12月3日 | 150人 | 平28-80012-301751号 |

### ●選択領域「受講者が任意に選択して受講する領域」に関する免許状更新講習

| 講習の開催地     | 講習の概要                                                                                                                                                                                                    | 担当講師                                                                                     | 時間数 | 講習の期間       | 受講数  | 認定番号              |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-------------|------|-------------------|
| 福島県<br>福島市 | 幼稚園教諭を対象とする。保育の質が問われる今日、子どもの健やかな発達を助長させていくために指導計画の立案と記録・評価は、保育者にとって不可欠な課題です。指導計画の立案を中心に、実践・記録・読み取り・評価の生かし方について講義し、演習を交えながら楽しく学びます。                                                                       | 安見克夫（東京成徳短期大学教授）                                                                         | 6時間 | 平成28年12月26日 | 50人  | 平28-80012-507587号 |
| 群馬県<br>前橋市 | 幼稚園教育内容を深めるをテーマに、「幼児期の発達の特性と環境構成の工夫」を主軸として、次の3項目について講義を行う。<br>①幼児期の運動能力を考える<br>②幼児の「ことば」の力を育てる<br>③幼児にとって身近な環境とは                                                                                         | 平山許江（立正大学大学院非常勤講師）、森田陽子（日本女子体育大学准教授）、柳晋（育英短期大学教授）                                        | 6時間 | 平成28年12月26日 | 30人  | 平28-80012-507588号 |
| 大阪府<br>大阪市 | この世に誕生した時点から「本源的能動性」と呼べるべき力を持って世界に関わる子どもたち。子どもたちが自分らしく「心」を育てていく道筋を幼児前期・中期の発達と教育の関係を中心に問い直す。後半は人間が育つ過程で周囲の大人の果たす役割は大きい。保護者から離れて他児と集団生活を送る時に役割が求められ、生活とあそびを意図的に組織することが保育者には求められる。また、乳幼児と小学校以降の接続にも視点を当て学ぶ。 | 加藤繁美（山梨大学大学院総合研究部教育人間学域教授）、安家周一（梅花女子大学心理こども学部こども学科客員教授、大阪教育大学幼児教育課程論非常勤講師、あけぼの幼稚園理事長・園長） | 6時間 | 平成29年3月27日  | 100人 | 平28-80012-507589号 |



バス専用機不要！  
スマホで簡単バス運行管理！

# くるんとバス

-通園バス位置情報システム-

**いつもNAVI**

「いつもNAVI」動態管理サービスfor送迎バス(くるんとバス)は、株式会社ゼンリンデータコムに登録商標です。

「くるんとバス」はスマートフォン・タブレットのGPS機能を活用したシステムで、バスの運行情報や到着メール・ルート作成等を提供するクラウド型サービスです。

 **株式会社チャイルド社** インターネット課

TEL.03-5370-7497 〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-37-15  
ホームページアドレス <http://www.child.co.jp/>